

四條畷市福祉計画策定専門部会議事録

開催日：令和5年7月14日

会場：四條畷市役所 東別館2階 201会議室

出席者：小寺委員長、小林副委員長、岡田委員、中村委員、北井委員、山本委員、井上委員

出席職員：小川主幹（高齢福祉課）、三谷施設長代理（児童発達支援センター）、高岡副センター所長（保健センター）、西川主任（子ども支援課）、宮地主任（子ども政策課）、北井主任（子育て総合支援センター）、竹本主査（生活福祉課）、阪上課長・山口主任・楠本主査（福祉政策課）

【事務局】

本日は、ご多用の中、ご参集いただきまして、ありがとうございます。ただ今から、第2回四條畷市地域福祉計画策定専門部会を開会いたします。わたくし、本日の司会を努めさせていただきます福祉政策課の楠本と申します。よろしくお祈いします。開催に先立ちまして、福祉政策課長の阪上から挨拶を申し上げます。

【阪上課長】

皆さま、ご多忙のところ、本日はこの会議にお越しいただき誠にありがとうございます。本日は、来年度からの第5期四條畷市地域福祉計画策定に向け話し合い、より良い結論に向かうために集まっていたいただきました。それぞれに違ったバックグラウンドを持つ皆様からの視点や意見は大変価値があるものであり、有意義な意見交換がなされることを楽しみにしています。

なお、皆様の貴重な時間を最大限に活用するためにも、効率よく進行することを心がけていきたいと思ひます。ご理解とご協力を心よりお祈い申し上げます。それでは、会議を始めさせていただきます。よろしくお祈いいたします。

【事務局】

続きまして、本日の会議の成立について、ご報告させていただきます。本日は委員10名中7名が出席でございます。四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたしますことをご報告いたします。3月に第1回を開催させていただきましたが、4月の異動により市関係課職員に一部変更がありましたので、改めて皆様に紹介させていただきます。高齢福祉課主幹の小川です。生活福祉課主任の竹本です。子ども政策課主任の宮地です。子ども支援課主任の西川です。子育て総合支援センター主任の北井です。児童発達支援センター施設長代理の三谷です。保健センター副センター長の高岡です。福祉政策課課長の阪上です。同じく主任の山口です。以上です。よろしくお祈いいたします。

また、4月に委員の変更がありましたので、ここで紹介させていただきます。四條畷市社会福祉協議会の法人内異動で村井委員が抜け新たにCSW（コミュニティソーシャルワーカー）として井上委員が就任されました。

【井上委員】

井上です。よろしくお祈いします。

【事務局】

今後ともよろしくお祈いいたします。では本題に入る前に資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしていただきました資料をお持ちでしょうか。

それでは、これ以降の議事の進行につきましては、四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条に基

づき、小寺部会長にお願いいたします。

【小寺部会長】

みなさん、こんにちは。よろしくお願ひいたします。いよいよ福祉計画策定に入っていくわけですが、今回の計画は色々な意味をもっています。社協の地域福祉活動計画と時期を一緒にさせていただいております。地域福祉計画と地域福祉活動計画について理念と実践と、そういったような分け方になると思うんですけども、一体的な形で作っていくのが望ましいのかな、と思っています。他市では、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体化して作っていくという試みをされています。そういった、参考になるような事例があれば今後も紹介させていただこうかな、と思います。それと、地域福祉計画は来年度からそれぞれ始まる個別の計画、例えば高齢分野とか障がい分野の計画が作られていきます。それらの上位計画になりますので、この地域福祉計画が重みをもっています。委員の皆様方も、そういったことに留意しながら計画策定の作業をしていただきたいと思います。

では、議事を進めさせていただきます。まず、会議の公開・非公開について、決める必要がございます。事務局から、市の会議公開制度についての説明お願いいたします。

【事務局】

本専門部会の会議の公開・非公開について説明させていただきます。本市では、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、法律や条例のみならず要綱等による会議体についても、その審議状況を市民に明らかにするため、原則として公開するものとしております。よって、本専門部会の会議についても公開とし、ご意見や議事内容等についても、ホームページ等において公開したいと考えております。

【小寺部会長】

いかがでしょうか。ただ今の説明のとおり本委員会の会議を公開とすることに意義はないでしょうか。では公開といたします。それでは、続いて「各委員より地域福祉についての意見発表」ということで、皆様より事務局に提出いただいたヒアリングシートをお手元に配布させていただいておりますので、それに基づき、委員の皆様おひとりずつ発表をお願いいたします。

【小寺委員長】

私から話をさせていただきます。現状ですけれども様々な地域課題が浮き彫りになってきています。8050問題、閉じこもり、不登校、ヤングケアラー、多問題家族等といったような問題に対し積極的に取り組むべきであるという意見です。行政のタテ割の役割分担というのはどこでもあって国の方でも子ども家庭庁ができましたが、特殊性を保っていないということになるんですね。国でもそうですので市町村では、それぞれの役割を全うしていただければいい、というようなことですが、ただ先ほど述べたような様々な地域課題が出てきましたので、そんなことは言ってもらえないということで、縦割りをなくしていくような試みが出てきています。問題の解決には、この計画をきちっと作って実践していく行政の意識改革が大事かなと思います。私の意見は以上です。次は堂棺さんお願いします。

【事務局】

申し訳ありませんが、堂棺委員は欠席です。(代理で発表) お子さんがいらっしゃって保護者という視点でご意見をいただいております。子どもが遊べるような公園やボール遊びができる広い場所が欲しい、とか坂が多いといったような意見が主となっています。また交通支援員さんからよく声掛けしてもらえている、とか地域の力が大きいというようなご意見、またその他として、

障がいがある子どもへの支援については他市に比べても充実しているというご意見です。

【小寺部会長】

ありがとうございます。本日欠席ということで残念ですが、ご意見だけでも紹介いただきました。次は岡田委員です。

【岡田委員】

今はデイサービスを利用しています。色々なサービスがあるということをもっと丁寧に伝えていってほしいと思います。腰が曲がった高齢の方が重そうな買い物袋をもって歩いているのを見ると気の毒だな、と思います。

【小寺部会長】

ありがとうございます。続いて井上委員お願いします。

【井上委員】

相談業務を行っている人は早急な対応に追われていて、余裕がないというか、細かい部分まで行き届いていないというような印象を受けます。専門職としての力が弱いかな、と思うこともあります。以上です。

【小寺委員長】

相談員としての立場から意見を出してもらっています。負担が大きい、余裕がないという意見ですが、こうなれば負担が減り余裕が出るのに、と思うところはありますか。

【井上委員】

例えば行政側の相談受付が、日や時間が限られていることが多いです。そういったところでタイミングよく相談できないことがあります。

【小寺委員長】

事務局としてはどうですか。

【事務局】

確かに日や時間が限られている場合が多いので、相談する側としてはタイミングを逸することもあるとは思いますが、市役所内の相談受付は色々ありまして、それぞれの所管課の都合の上で相談員を配置していると思われまます。

【阪上課長】

補足です。時間については、他の業務との兼ね合いもありますので、相談業務にできる限りの時間を取りながら今の支援体制をとっていると思いますが、ご意見をいただいたので、できること、できないことはあるかもしれないですが、一步でも前に進めていけたらいいと考えています。

【小寺部会長】

ありがとうございます。一気に解決できる問題ではないですからね。次は奥田委員さんお願いします。

【事務局】

奥田委員も本日欠席なので代わりに発表します。サロン活動に参加する人や活動を支える人の高齢化が課題であるとのこと。地域活動の担い手を今後獲得していく必要があるとのことご意見です。

【小寺部会長】

ありがとうございます。次は北井委員お願いします。

【北井委員】

行政による福祉に関する情報提供はここ数年でよくなったと実感しています。社会福祉協議会には色々と担っていただいていますし活動も活発になったと感じます。いま言いたいのは情報発信、見せ方の工夫が必要なのかなということです。具体的に言えば、四條畷市民生委員児童委員協議会大会について市長は来賓ではなく主催者として発信してもらえればまた違うのかな、と考えています。情報発信、見せ方に工夫についてどう進めるのか、については小寺部会長が指摘された行政の縦割りの話がありましたが、組織を横断した形でものをまとめるというのははしにくいですよね。例えば部をまたいだチームをつくるのがいいかなと思いますし、そういったところに注力してもらえればいいかな、と思います。

【小寺部会長】

ありがとうございました。次に山本委員お願いします。

【山本委員】

コロナが始まったときに印象的なことを体験しました。市が出すコロナについての施策について高齢者にほとんど行き渡っていない。そこで、活動拠点の前に掲示板を作り、市の施策をダウンロードし、拡大コピーし貼り付け、受給方法についてチラシに記載し置いていたところ、すさまじい勢いでチラシがなくなり増し刷りしないといけなくなったんです。これは行政のデジタル化の真逆の立場にいる高齢者が置いてけぼりになってしまっているのです、高齢者に伝えるために担い手が必要であると思います。「どっかにあるよ」「どっかに見に行つてよ」はできないから、人から人への伝達が大切だが、行政がすべてやるのは無理だ。そこで、例えば民生委員などの限られた数の中でそれを行おうとするのは不可能。地域に色々な拠点やグループを作つての中でのような伝え方をするのか、こういった検討が、これからの超高齢化社会には必要になってくるのではないかと思います。その担い手を拡大しようと高齢者大学を始めてボランティア養成講座の入り口になるようなことを毎年やっているわけですが、行政もボランティア講座をやっているのになぜ行っているのか。行政は特定の活動に対する講座が多いんですね。例えば、この前やっていたのが認知症サポーター養成講座。これはこれで必要ですが、それに関心をもつまでが大事なんです。他の市では生涯学習センターが中心になってやっているところが多い。四條畷市は公民館法に基づく公民館で代用しているわけですが、公民館の中身と生涯学習センターの中身は少し肌合いが違いますし、取り組む課題も少しずつれていると思う。目的も公民館は楽しむこと、生涯学習センターは社会貢献に向けての自分磨きだと自分は思っています。人生100年時代で、再び学ぶということが大事になってきているから、行政としてそういった場を作つてほしいと強く思っています。

【小寺部会長】

ありがとうございます。地域福祉なので地域づくりというのが一つ大きなテーマになっているわけですが、地域をつくるということと同時に人を育てることが大きな課題かなと思います。

【北井委員】

今、山本さんがおっしゃった件について、村井委員の意見に賛成です。働いている世代をいかに巻き込むか、第二の人生の仕事だというパターンが多いのですが、それでは働いている人が多いのでどうしたらいいのか、と考えたときに現役世代を巻き込む、ということになる。それか考え方を改めて、福祉の活動をしている学生は就職にメリットがあるとか、そういうふうに変え

ていかないと地域福祉を担う人がいない、というふうになってしまうと思うので、この意見に賛成です。

【小寺部会長】

ありがとうございました。次は小林委員ですね。

【小林委員】

書いてある通りなのですが、自分の地区では仲間づくりと居場所づくりということで、子育て中のお母さん方の依頼がありまして、自治会館を解放し自由に過ごしていただいています。その中で交流ができて、お母さん同士でグループラインを作ったり、しそジュースを頑張って作ったりとか、リーダー的な方ができたりして、そういうふうに子どもの方は進んでいます。また、お店をしているある人と相談しましたところ、身体的、知的の障がいがある人が一緒にくつろげるようなサロンのような場所の中で、なかなか難しいのが、特に知的な障害がある人ですが一般の方が来られたら遠慮して帰ってしまうとか、そういう方の居場所がなくてどうしたらいいのか、なかなか進んでいないですが、色々な人が気軽に利用できる居場所ができたらいいなと思っています。

【小寺部会長】

ありがとうございます。次は中村委員をお願いします。

【中村委員】

人材不足と書いていますが、社協でのボランティアセンターの会議とか、地区福祉委員の会議でも担い手不足の課題が毎回出てくるのですが、一方でそういう課題はあるけども年に数十人は「これやったらできるかな」ボランティアセンターでも「手伝いたい」といったような意思をもってきてくれる人がおられます。ただ、平日の9時から5時で受付できる方は限られてくると思いますし、センターとしては間口を広げる、意思を持っている人を大切にする、一緒に活動を行っていくにはどうしたらいいか、という考え方へのシフトが大切だと思います。社協でも、SNSやチラシを活用して、色々と工夫しながらなんですが、アンケート調査の社協の認知度が低く「名前を知っているが何をしているのか知らない」「名前も知らない」含め70%近くが知らないというところで恥ずかしいですが、届けたい方に届く仕組みをきちんと作る、発信し続ける大切さが身に染みて感じます。昨今のコロナ禍は長引きましたけど、社協でも貸付でコロナの影響で減収、失業したといった相談が多く、金銭的にしんどい世帯が多いと思うんですが、そこに加えて、地域で社会的に孤立した人が出ない仕組みづくりも課題かなと感じました。

【北井委員】

アンケートの内容ですが、問24「あなたは、生活上の困り事など地域の福祉の問題に対し、住民相互の自主的な支え合い、助け合いについて、どの程度必要だと思いますか」で、必要だと思うが73.8%。多くの方が福祉関係を必要だと認識しておられます。問17「あなたは福祉に関心がありますか」も「とても関心がある」「ある程度関心がある」を含めると7割程度あるんですね。興味を持っている、いずれは将来自分が世話にならないといけないといったような感じ方だと思うんですが、先ほど中村委員がおっしゃったように、具体的な組織を知っているか、といったら社会福祉協議会の認知度は4割なんですね。さらに民生委員・児童委員の状況も認知度も低いんですね。情報発信力が大切であり我々の課題なのかなと思いました。

【小寺部会長】

ありがとうございました。次の川岸委員も欠席ですね。

【事務局】

はい。代わりに発表させていただきます。

福祉施設を運営されている方の視点ということで、ご意見をいただいております。地域の方々や中学生と交流できるスペースをもった事業所の運営や作業所内を解放することで地域と交流する機会があり、それが地域福祉の一つであると述べられています。一方で施設入所者が「かわいそう」であると考えている人が多くいることが課題であるとのこと。どんな状態の人でも一生涯家族そろって生き生きと生活ができる社会になるよう、心のバリアフリーが必要であると述べられています。

【小寺部会長】

ありがとうございました。皆様の意見を頂戴しましたが全体を通して何かご意見等ありませんでしょうか。では、次に庁内各課のヒアリング結果について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

はい。資料をごらんください。シートの右上に担当課を記載しております。各業務内容について、「目的・内容」「現状の取組み等」「現状の問題点等」「今後の方向性等」、ヒアリング結果を掲載しております。対象部署としては、福祉関係部署が主で危機管理、教育関連、人権の関連部署にも調査を行っています。事前に資料を送付させていただいておりますので、皆様もある程度は内容を読んでいただいたと思っておりますので、各課からの説明はしませんが、質問等あればお願いします。

【事務局】

すぐに質問も難しいかもしれないので、改めてご質問があれば後の専門部会のときにでもお受けしようかと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

【小寺部会長】

色々なご意見をいただきましたが、行政や民間どちらも連携不足から効率の悪い動きというか、井上委員が言っていましたが、余裕がないという話がでてきています。うまいこと関係機関で連携して、良い地域を作っていってもらいたいと思います。交野市の紹介をしたいと思います。今年の3月に、交野市重層的支援体制整備事業実施計画というものを作っています。これは、話に出ていた行政の縦割りをなくして一つの問題に対し、色々な部署で検討してどんどん上に挙げていって解決していこうという実施計画です。子どもの問題、障がい者の問題、高齢者の問題、生活困窮の問題等、様々な問題を地域で検討会をして、どんどん上げていって専門職も入って政策化していくという形ですので、一つの大きなモデルになるのかな、と思います。これとよく似た組織は四條畷市にもあるんですね。それが「四條畷市地域生活困窮丸ごと支援会議」という会議があり、問題に対しひとつの課だけではなく色々な職員が集まって解決していこうというもので、ごみ屋敷など一つの部署で解決できない問題を扱っています。実績もある程度もあると思います。行政からも各課のヒアリングシートの提示がありましたが、ひとつの問題が起こったときにそれぞれがどう動くのかが見えてこないこともあり、これらのことも視野に入れながら、地域福祉計画について議論を深めていきたいと思います。本日は色々な意見をいただきありがとうございました。

全体として何かありませんでしょうか。

【北井委員】

情報発信の話ですが、3月に計画完成、報告ですが、セレモニーなどが必要なのではないです

か。5年に1度なので、ただ「改定しますよ」だけでは盛り上がらない。市長が出てきてもらって何かをやるとか。また経過報告も積極的に報告すべきだと思う。そういったところから、民生委員、児童委員や社会福祉協議会のあの認知度です。ツイッターやアナログな手段など色々なツールはあるんだから、それらを使って発信して行ってほしいと思います。

【山本委員】

子ども政策課のヒアリングの中で、こどもの貧困対策の最後に「こども食堂の周知、協力」と書いてある。こども食堂は、貧困対策と掲げているところはひとつもないです。なぜかと言えば、貧困対策とした途端に、そういった対象者はこども食堂に来られなくなるから。こどもの居場所ということでグレーな存在であるし、例えばひとり親家庭支援というのもグレーなんです。本当に困っているひとり親か、親と同居でそこまで困っているわけではないひとり親か、わかりません。そういう意味でグレーなんです。ひとり親ならだれでも来てもらっても良いが「なんかちゃうなあ」というところは結構ある。ただ、それを言ってしまったら誰も来なくなる。ひとり親なら良いよ、と言っておけば、本当に苦しい人から、普通に生活できている人まで「ちょうだい」って言える。そういうふうにしたいから、こども食堂を「貧困対策」の中に置くのは違うと思います。

【小寺部会長】

ありがとうございます。こども食堂はもっと広い意味で運営していくということが望ましいですね。他に何かご質問等ございませんでしょうか。

それでは、事務局にお返しします。

【事務局】

ありがとうございました。今後、福祉計画の素案を作っていくことになります。本日いただいたご意見については、どこまで反映できるかわからないですが、参考にさせていただきます。次回の専門部会では、ある程度形が整った素案を提示させていただき、それに対しご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。時期が決定すれば、皆様にお知らせしますのでよろしくお願いいたします。